

令和元年5月31日現在

機関番号：32517

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2017～2018

課題番号：17H07071

研究課題名（和文）絵本の種類が養育者の絵本に対する期待や読み聞かせ行動に与える影響に関する研究

研究課題名（英文）The effect of picture book type on the expectations and behaviors of caregivers

研究代表者

齋藤 有 (SAITO, Yu)

聖徳大学・児童学部・講師

研究者番号：60732352

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、絵本への期待や行動が絵本の種類によって異なるのか、質問紙調査や面接調査、インターネット調査等で検討した。結果、絵本一般には親子のコミュニケーションや子どもの興味関心の広がりを期待し、子ども主体の行動がとられる一方、養育者は子どもに必要な知識・教養の獲得を目的として絵本を選択することも多く、その場合には、養育者主導のはたらきかけもなされていることが明らかになった。また、本研究では絵本に対する期待が読み中の養育者の行動を介して子どもの反応形成につながる過程も示唆され、今後、絵本の選択行動とその後の絵本を介したやりとりとの関連についての研究の必要性も明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、家庭での絵本の読み合いがますます一般的になり、市場には多種多様な絵本が存在している。その中で、絵本の種類や性質が養育者の絵本に対する期待や行動に与える影響に着目した研究は少なく、本研究の知見は学術的に新しく意義があると考えられる。特に、絵本に対しては、必ずしも親子のコミュニケーションや子どもの興味関心の広がりが期待され、絵本読みは子ども主体で行われるばかりでなく、選択される絵本によって異なることが明らかになった。したがって絵本の選択は、絵本を読む単なる準備行動ではなく、絵本の読み合いの質を担う重要な一部となることが実証的に示唆できた点には社会的意義もあると考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study examined whether the expectations and behaviors of picture books differ depending on the type of picture book. As a result, caregivers generally expect picture books to facilitate caregiver-child communication and broaden children's interests. On the other hand, caregivers often select picture books to help children gain the knowledge and education they require. In this case, it became clear that the caregiver-led behaviors were also made. In addition, this study suggested that the expectations of the picture book lead to the child's reaction formation due to the behavior of the caregiver during reading. Therefore, in the future, research is needed on the relationship between picture book selection behaviors until caregiver-child interaction through picture books is more clearly understood.

研究分野：子ども学

キーワード：絵本の種類 養育者の絵本に対する期待 養育者の絵本読み行動

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

絵本を通じた養育者と子どもの相互作用については、子どもの言語やリテラシーあるいは社会情動的な発達を促すという観点から、1970年代以降、国内外で多数研究が行われてきた。その中で、絵本を通じた養育者と子どもの相互作用はその頻度だけでなく、質も重要であることが明らかにされてきた(Fletcher & Reese, 2005)。

しかし絵本を通じた養育者と子どもの相互作用の質に関する体系的な知見の蓄積についてはいまだ十分とはいえない。理由の1つに、その相互作用が観察される際、使用される絵本が研究間で異なっており、得られた結果が必ずしも使用された絵本を超えて一般化できないことが挙げられる。例えば、筆者はこれまでに、絵本を通じた母親と子どもの相互作用を観察し、日常的に子どもとのふれあいを享受する「共有型」タイプの母親は、子どもの絵本に対する自発的な関わりに共感的な反応が多い一方、日常的に子どもに統制的に関わる「強制型」タイプの母親は、同様の場面で説明的な反応が多い等、絵本を通じた相互作用の質が日常の養育態度と関連していることを明らかにしてきた(齋藤・内田, 2013他)。しかしこれは、主人公の心情が他の登場人物とのやりとりの中で次第に変化していく物語絵本を使用したためである可能性もあり、もしその絵本がひらがなや数を教えるような知育絵本であった場合に、「共有型」タイプの母親も子どもの疑問に対して説明的な反応が増える、擬音語や擬態語からなる言葉遊び絵本では「強制型」タイプの母親も子どもと共に楽しむ反応が増える等、絵本の種類によっては異なる結果が得られるのではないかと考えられる。

このように、絵本を通じた養育者と子どもの相互作用において、絵本自体がもつ性質が与える影響についてはこれまでも指摘され、国内では絵本の種類を限定して研究されることはあった(横山, 2003)が、絵本の種類を要因として取り上げ、体系的に相互作用を検討した研究は見当たらなかった。また、国外では、図鑑絵本と物語絵本の比較から、図鑑絵本では物語絵本よりも読み手と聞き手の相互作用が活発になること、読み手から聞き手への肯定的なフィードバックが多くなること等を明らかにした研究はある(Price et al., 2009)が、現在、日本の絵本市場には年間3000点もの新刊が登場し、絵本の種類も多岐にわたっている。したがって、現在、養育者がどのような絵本をどのように選んでいるのかという実態把握も含め、より多くの絵本の種類を扱った研究が必要であるといえる。

また、絵本を通じた子どもとの相互作用に際して見られる養育者の行動の背景には上記の養育態度の他にも、養育者の絵本に対する価値観や期待も影響することが分かっている。例えば、子どもと絵本を読む際に「ふれあい」を重視する養育者に対して、「知識習得」を重視する養育者は、子どものひとり読みを促すような読み方をしていること(秋田・無藤, 1996)等が明らかにされている。しかし、このような絵本に対する期待も、実際にそこで読まれる絵本の種類、性質によっても異なる可能性があるが、その点を扱った研究は見当たらず、検討の余地があると考えられる。一方で、近年、情報工学の分野では、上原他(2016)が国内最大の絵本推薦サイト「絵本ナビ」で閲覧可能なレビュー(約32万件)を対象として行った研究から、子どもの「指さし」の出現頻度が高い絵本を明らかにしている。レビューはその書き手の客観的な子どもの行動記録というより、書き手の期待を含んだ子どもの行動記録と考えられる。したがって、上原他(2016)に挙げられた絵本における子どもの「指さし」反応の形成過程に着目することも、絵本の種類が養育者の期待や行動に与える影響を詳らかにする材料になると考えられる。

2. 研究の目的

上記の研究開始当初の背景をふまえ、本研究では、養育者が市場にある多種多様な絵本の中から実際にどのような絵本をどのように選択しているのか、そして、絵本の種類や性質によって養育者の絵本に対する期待や行動にどのような違いがあるのかについて、第一に少数サンプルで質問紙および面接調査、第二に、大規模サンプルでインターネット調査を実施して検証することを目的とする。また、絵本の種類や性質が養育者の絵本に対する期待や行動に与える影響については、観察調査も行ってさらに検証を試みる。

3. 研究の方法

(1)質問紙および面接調査

対象者および手続き 東京都内のこども園1園に通う0-5歳児の養育者105名に対して、園を通じて自記式の質問紙を配布した。任意回答で、参加の同意が得られる場合のみ、質問紙への回答及び回収ボックスへの提出を依頼した。結果37名(全員母親)分の有効回答が得られた(有効回答率35.2%)。なお、面接調査への協力が可能な場合のみ質問紙へ連絡先の記入を依頼した。面接調査は連絡先の記入があった3名と、さらに別途協力の得られた東京都および近郊在住の0-5歳児の養育者3名(全員母親)に対して各家庭を訪問して実施した。なお、面接調査時に、さらに同意の得られた5名について、同時に絵本読み場面の観察調査も実施したが、分析途中であるため、本成果報告書での記載は割愛する。

調査内容 質問紙調査では、秋田・無藤(1996)に基づいて作成した、絵本を読む際の期待(19項目)に加え、直近で購入した絵本のタイトルと出版社、購入方法、購入理由、家庭における絵本読みの頻度や絵本蔵書数、絵本の入手方法等に関して尋ねた。面接調査では、質問紙の項目を中心として日頃の絵本購入や、絵本に対する期待や行動に関する半構造化面接を行った。

(2)インターネット調査

対象者および手続き (株)クロス・マーケティングに依頼し、全国の第1子が0-5歳児の養育者で、ここ1年以内に絵本購入経験のある1000名を対象にインターネット調査を実施した。調査は同対象者に同手続きで2度実施したが、2度目の調査への協力者は731名であった。

調査内容 1回目の調査では、直近で購入した絵本のタイトルと出版社、購入方法、購入理由と、石川(2011)や横山(2007)に基づいて修正した、絵本に対する期待(20項目)と行動(16項目)、日頃の絵本読み頻度等を尋ねた。

2回目の調査では、種類の異なる絵本の見開き1ページの画像を提示し、各絵本に対する期待と行動を1回目の調査と同項目で尋ねた。期待に関しては特に重視する1項目の選択も求めた。絵本はa.知育絵本：まついのりこ作「とけいのほん1」(福音館書店) b.オノマトペ絵本：谷川俊太郎作「もこもこもこ」(文研出版) c.発想絵本：ヨシタケシンスケ作「りゆうがあります」(PHP 研究所) d.遊び絵本：五味太郎作「きんぎょがにげた」(福音館書店) e.物語絵本：ウクライナ民話「てぶくろ」(福音館書店)の5冊とし、提示順序の影響が出ないよう、対象者によって画像がランダムに提示されるようにした。

(3)観察調査

対象者および手続き 調査協力の同意を得られた、関東、関西、九州地区に居住する8家庭の母子(女児5名・男児3名、年齢1歳4ヶ月-2歳4ヶ月)に、1ヵ月間、絵本「きんぎょがにげた」(福音館書店)を読む様子を撮影してもらい、その録画記録を分析した。なお、この絵本は、上原他(2016)で、投稿レビュー中、子どもの「指さし」の出現頻度が最も高い絵本であることが明らかになっている。また、この絵本は、前述のインターネット調査では「遊び絵本」として扱ったが、その中でも、ページごとに「きんぎょはどこ？」という問いかけがあり、隠れたきんぎょを探す遊びを楽しむ絵本であることから、今回は「探索絵本」として扱った。

調査内容 本研究では、初回から安定した指さしが出現しなかった2家庭(1歳7ヶ月・1歳4ヶ月いずれも女児)のエピソードを抽出し、指さしに関連する母親の関わりを分析した。

4.研究成果

(1)質問紙および面接調査

本報告書では主要な結果のみ示す(以下同)。質問紙調査で尋ねた絵本を読む際の期待項目をその平均値が高い順に並べると、親が主体となる項目よりも、子どもが主体となる項目が、絵本を読んだ結果よりも絵本を読んでいる過程に対する期待項目が上位に位置していた(図1参照)。これは先行研究とも一致する結果であるが、一方で、実際の購入絵本の具体的な選択理由としては、子どもの絵本に対する興味や発達に合っているかどうかと並んで、その絵本が子どもたちに生活に必要な知識・教養(季節の行事や生活習慣、物事に対する態度等)を身に付ける上で有用であるかどうか重要な観点になっていることも明らかになった(表1参照)。面接調査でも、名作や昔話といった絵本は教養として読ませたいという回答や、大人が伝えていくべきものであるといった回答が得られ、絵本の種類によっては子どもの興味の有無に関わらず大人が与えるべきであるという信念が伺えた。また、面接調査では、「(絵本は)食べ物と同じだと思っていて...(それでも)ずっと出し続けるんですよ。何か伝えたい時は絵本借りて、読むっていうのは変わらないです」といった回答も得られるなど、本研究では、絵本読み一般に対する期待と個別具体の絵本に対する期待との間には違いがあり、絵本読み自体は子どもの興味関心やペースに合わせて行われるものの、絵本の選択、購入に際しては養育者の期待や価値観が強く反映される可能性が示唆された。

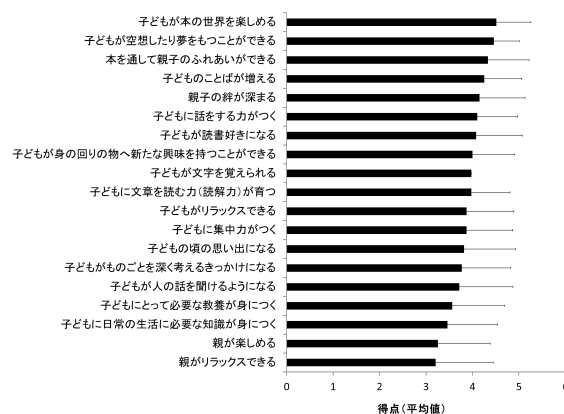


図1 絵本を読む際に期待すること

表1 絵本購入の具体的な理由に関する自由記述の分類※重複あり

絵本の購入理由	具体例	記述数
子どもの興味発達	子どもが図書館で気に入って何度も読んでいたので。主人公と子どもの年齢が近く共感できたと思ったので。	13
テーマ(教訓・生活習慣・季節)	学ぶことが多いので。新しいことにチャレンジする気持ちを養いたくて。お風呂に入る良いきっかけになればと思って。	13
絵・色彩・デザイン	カラフルなイラストでめくるだけでも楽しいので。絵や色彩が美しいので。	9
ボリューム(お話・ことば・文字)	適度な分量のストーリーが入っているので。1日1ページずつ読めるので。	4
思い出(読み手自身)	子どもの父親が小さい頃大好きでよく読んでいたので。自分が小さい頃に読んでいたので。	4
ことば・リズム・音	ことばのリズムが良いので。リズムよく読めるので。	3
知名度・作者	谷川俊太郎さんが好きなので。	3
利便性	待ち時間にちょうど良かったので。持ち歩きのサイズが欲しくて。	2
親子のやりとり	一緒に歌を覚えて歌いたかったので。	1

また、絵本選択理由においては絵本のボリューム(文字の量、お話の長さ)に関する記述も複数見られた。今回の対象者の多くは共働き家庭であり、日々忙しく、限られた時間の中で絵本を読む時間を作っている現状から、絵本の文字量やお話の長さも実際の絵本選択の重要な観点になっていることがうかがえた。このように、絵本の種類といった時には、絵本の内容面だけでなく、機能面等、さまざまな観点に着目する必要性のあることが示唆された。

(2)インターネット調査

調査 1 絵本の種類による期待や行動の違いについて検討するため、直近の購入絵本として得られた 388 冊（重複により延べで 534 冊）について、物語（設定や主人公が存在し、起承転結を含むもの）、知育（知識や教養の習得や知的発達の促進をテーマとして含むもの）、しつけ（食事、排泄、睡眠といった生活習慣や友達関係をテーマに含むもの）、遊び（絵探し・迷路・クイズ・しりとり、しかけ等、遊びの要素を含むもの）での分類を試みた。いずれか 1 つに分類することは不可能であったため、種類ごとに該当する絵本と該当しない絵本とを分類したところ、該当する絵本数は、表 2 の通りであった。

表2 本研究で扱った絵本の種類

種類	該当の基準	該当数(割合)
物語	設定や主人公が存在し、起承転結を含むもの。	314(58.8%)
知育	知識や教養の習得や知的発達の促進をテーマとして含むもの。	79(14.8%)
しつけ	食事、排泄、睡眠といった生活習慣や友達関係をテーマに含むもの。	38(7.1%)
遊び	絵探し・迷路・クイズ・しりとり、しかけ等、遊びの要素を含むもの。	125(23.4%)

絵本の種類ごと該当有群と該当無群で期待項目の平均値に差があるか t 検定を行った結果、物語/しつけ絵本では該当有群で有意に期待値の高い項目(+)が、知育/遊び絵本では該当有群で有意に期待値の低い項目(-)があった(表 3 参照)。

同様に各行動項目の平均値差も検討した結果、物語/知育絵本では、しつけ/遊び絵本に比べ、該当有群と該当無群で差のある項目が多かった(表 2 参照)。

表3 絵本の種類ごとの購入絵本に対する期待の違い

購入絵本に対する期待	物語	知育	しつけ	遊び
親子のコミュニケーションがはかれる	-	+		
親にない知識・教養を子どもに教えてくれる	+	++		
子どもの話す力が育つ		+		
子どもが苦手なもの(こと)を克服できる			++	-
子どもが身のまわりの人や物を大切にすることを育む	++			--
子どもが読書好きになる	++			
親子のスキンシップがはかれる				
子どもの集中力が養われる				
子どもの情緒が安定する				
子どもの興味関心が広がる				
子どもにとって基本的な生活習慣の意識づけになる			++	
子どもの聞く力が育つ	+			-
親子でリラックスした時間がもてる		-		
子どもが物事を深く考えられるようになる				
親子で絵本の世界を楽しめる	+	-		
子どもの言葉の数が増える				-
子どもが社会生活に必要な知識・教養を身につけられる		++		-
子どもが文字を読めるようになる				
子どもの想像世界が広がり、夢がもてる				
子どもの色彩感覚が養われる				

表4 絵本の種類ごとの購入絵本に対する行動の違い

購入絵本に対する行動	物語	知育	しつけ	遊び
絵本の内容について子どもが質問してきたら答えを与える			++	
読みながら子どもと絵本を通じたやりとりをする				
絵本の内容と子どもの日常とを関連づけるような言葉をつける				
子どもの知らない言葉や対象が出てきたら言葉を補って説明する				
絵本の内容について子どもが間違ったことを言ったら訂正する				+
絵本の内容について質問して子どもの理解を確かめる			++	
読んでいる内容を表した絵を指さしながら読む				--
子どもが絵本に集中していなければ読むのをやめる				
ページの最初から最後まで順を追って読む				
読み終わった後に子どもと絵本に関連したやりとりをする				
身ぶり手ぶりを付けながら読む				-
書かれた文字を正確に読む				
文字を指さしながら読む			--	
声に抑揚をつけて読む				-
子どもが読んでほしいという限り何度でも読む				
子どもが読める文字は読ませる		+		-

注: +/--は1%水準、++/-は5%水準で統計的に有意であったことを示す。

以上より、絵本をいずれかの種類のみで分類することはできなかったが、絵本の性質によって養育者の絵本に対する期待や行動が異なることは明らかになった。一方で「子どもの興味関心が広がる」「読みながら絵本を通じて子どもとやりとりする」など、絵本がもつ性質によって違いのない項目は、絵本や絵本の読み聞かせ一般に共通して存在している意義や活動の性質であることが推察された。

調査 2 調査 1 では養育者の購入絵本に対する期待や行動が、その絵本の種類によって異なるかを検証したため、養育者の絵本一般に対する期待や行動が絵本選択に現れている可能性を否定できなかった。そこで調査 2 は、同一対象者で絵本の種類によって期待や行動が異なるかを検証した。各絵本の種類で、期待 20 項目中もっとも重視する項目の選択に偏りがあるかどうか²検定で検討した結果、同一対象者でも絵本の種類によって重視する項目の選択は有意に偏っていた(詳細は表 5 参照。残差分析の結果は有意に多い項目、は有意に少ない項目)。

表5 絵本に対する期待項目の中で特に重視する項目の選択数および選択率

期待項目	知育		オノマトペ		発想		遊び		物語	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
1 親子でコミュニケーションがはかれる	133	18.2	147	20.1	131	17.9	145	19.8	125	17.1
2 絵本が親にない知識・教養を親に代わって子どもに教えてくれる	50	6.8	▲ 22	3.0	▽ 41	5.6	27	3.7	28	3.8
3 子どもの話す力が育つ	18	2.5	33	4.5	21	2.9	25	3.4	29	4.0
4 子どもが苦手なもの(こと)を克服できる	22	3.0	▲ 11	1.5	11	1.5	19	2.6	12	1.6
5 子どもが身のまわりの人や物を大切にすることを育む	31	4.2	15	2.1	▽ 30	4.1	29	4.0	51	7.0
6 子どもが読書好きになる	37	5.1	40	5.5	42	5.7	43	5.9	62	8.5
7 親子でスキンシップできる	40	5.5	55	7.5	58	7.9	57	7.8	41	5.6
8 子どもの集中力が養われる	27	3.7	31	4.2	20	2.7	31	4.2	32	4.4
9 子どもの情緒が安定する	10	1.4	13	1.8	8	1.1	12	1.6	18	2.5
10 子どもの興味関心が広がる	63	8.6	63	8.6	53	7.3	42	5.7	▽ 53	7.3
11 子どもにとって基本的な生活習慣の意識づけになる	68	9.3	▲ 19	2.6	▽ 51	7.0	▲ 27	3.7	15	2.1
12 子どもの聞く力が育つ	13	1.8	▽ 24	3.3	23	3.1	15	2.1	33	4.5
13 親子でリラックスした時間がもてる	19	2.6	29	4.0	21	2.9	27	3.7	19	2.6
14 子どもが物事を深く考えられるようになる	23	3.1	12	1.6	▽ 27	3.7	21	2.9	35	4.8
15 親子で絵本の世界を楽しめる	28	3.8	▽ 52	7.1	47	6.4	49	6.7	58	7.9
16 子どもの言葉の数が増える	17	2.3	22	3.0	25	3.4	23	3.1	14	1.9
17 子どもが社会生活に必要な知識・教養を身につけられる	75	10.3	▲ 10	1.4	▽ 37	5.1	14	1.9	▽ 6	0.8
18 子どもが文字を読めるようになる	12	1.6	12	1.6	14	1.9	15	2.1	11	1.5
19 子どもが想像世界が広がり、夢がもてる	18	2.5	▽ 75	10.3	▲ 43	5.9	50	6.8	62	8.5
20 子どもの色彩感覚が養われる	27	3.7	▽ 46	6.3	28	3.8	60	8.2	▲ 27	3.7
計	731	100.0	731	100.0	731	100.0	731	100.0	731	100.0

特に、知育絵本では、知識・教養、生活習慣の獲得が重視され、物語絵本では情緒や思考、想像世界の広がり重視されていた。一方、すべての絵本でもっとも多く選択された項目は「親子でコミュニケーションがはかれる」で共通しており（詳細は表5参照。赤字は選択数（率）の上位2項目、青字は選択数（率）の下位2項目）本調査においては、絵本の種類に関わらず絵本には親子のコミュニケーションが期待されることが明らかになった。

また、絵本の種類による読み行動の違いを検討するために各行動項目の評定平均値(図2)について、絵本の種類を要因とした対応のある分散分析を実施した結果(表6参照)、知育絵本では絵本を介した積極的なやりとりが生じる、あるいはやりとりが試みられることが明らかになった。また、絵本の種類による違いがない項目も半数あり、絵本の種類に関わらず、子どもの興味関心に応じた読み方(8,9,15)が基本となっていること、文字に対する行動は相対的に少ない(13,16)こと等が考えられた。

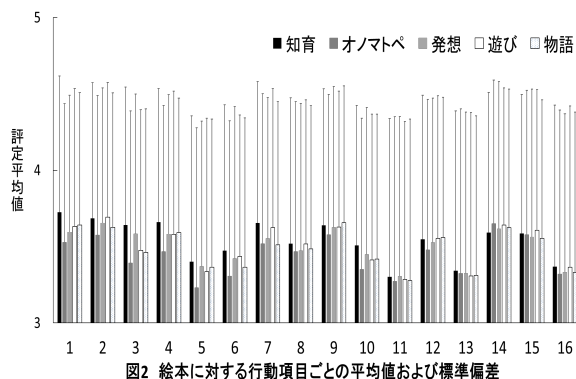


図2 絵本に対する行動項目ごとの平均値および標準偏差

表6 絵本に対する行動項目ごとの分散分析の結果

行動項目	分散分析の結果	
	(Bonferroni法による多重比較)	
1 絵本の内容について子どもが質問してきたら答えを与える	a>b,c,d,e/d,e>b	
2 読みながら子どもと絵本を通じたやりとりをする	a,d > b	
3 絵本の内容と子どもの日常とを関連づけるような言葉をかける	a,c>b,d,e	
4 子どもの知らない言葉や対象が出てきたら言葉を補って説明する	a,c,d,e>b	
5 絵本の内容について子どもが間違えたことを言ったら訂正する	a,c,d,e>b	
6 絵本の内容について質問して子どもの理解を確かめる	a>b,e/c,d > b	
7 読んでいる内容を表した絵を指さしながら読む	a>b,c,e/d > b,e	
8 子どもが絵本に集中していなければ読むのをやめる	有意差なし	
9 ページの最初から最後まで順番を追って読む	有意差なし	
10 読み終わった後に子どもと絵本に関連したやりとりをする	a>b,d,e/c > b	
11 身ぶり手ぶりをつけながら読む	有意差なし	
12 書かれた文字を正確に読む	有意差なし	
13 文字を指さしながら読む	有意差なし	
14 声に抑揚をつけて読む	有意差なし	
15 子どもが読んでほしいという限り何度でも読む	有意差なし	
16 子どもが読める文字は読ませる	有意差なし	

*a知育絵本, bオノマトペ絵本, c発想絵本, d遊び絵本, e物語絵本, を示す

このように、本研究を通して絵本の種類や性質によってその絵本に対する期待や行動が異なることが明らかになった。(1)質問紙調査、面接調査の結果もふまえると、特に、絵本一般に対しては、養育者は親子のコミュニケーションや、子どもの興味関心といった点を期待し、読み行動も子ども主体で行われる一方、知識・教養の獲得を目的として絵本が選択されることもあり、その場合には、子どもの理解を確かめるような大人主導のはたらきかけも行われていることが明らかになった。なお、本研究では、絵本の種類をどう分類するのかという点が十分に精査しきれなかったため、今後はこの点を深めていくとともに、絵本に対する期待や行動は、子どもの年齢、すなわち、子どもの発達段階によっても影響されると考えられるため、その観点も加えて引き続き検討していく予定である。

(3)観察調査

最後に、絵本の性質が養育者の期待や行動に与える影響について、探索絵本を用いて観察調査を実施した結果を報告する。初回から安定した子どもの指さしが出現しなかった2家庭(1歳7ヶ月・1歳4ヶ月いずれも女兒)のエピソードを抽出し、指さしに関連する母親の関わりを調査した結果、例えば、母親が「きんぎょどこ?」と聞いた際に子どもが「こー」と視線をきんぎょに動かすと、母親は「ここか、ここ」と子どもの手をとってきんぎょを触らせたり、子どもが指さしをした際に「あ!ここだ~」と強調して声をかけ、子どもの手をもって再び指さしたり、子どものなんらかの行動をきっかけとしながらも、母親が子どもの探索の指さしを促したり強化したりしていく様子が観察された。また、この母親たちに「1ヶ月絵本を読んで印象に残った子どもの反応」について質問すると、「最初はきんぎょがどこにいるのか全然指差しもできなかったが、最近はとにかく自分でページをめくってどんどん指差したがるようになった」ことを挙げる等、探索絵本における母親の子どもの「指さし」行動に対する期待や、その期待が母親の行動につながり、子どもの反応形成をもたらす過程が推察された。

よって、今後は、このように母親のなんらかの期待を含む絵本選択が、その後の絵本を介した子どもとのやりとりとどのように関連しているのかについてより詳細に分析していくことを課題とし、さらに検討していきたい。

<引用文献>

Fletcher, K. L., & Reese, E.(2005). Picture book reading with young children: A conceptual framework. *Developmental review*, 25, 64-103.

齋藤有・内田伸子(2013). 幼児期の絵本の読み聞かせに母親の養育態度が与える影響:「共有型」と「強制型」の横断的比較. *発達心理学研究*, 24, 150-159.

横山真貴子(2003). 保育における集団に対するシリーズ絵本の読み聞かせ 5歳児クラスでの『ねずみくんの絵本』の読み聞かせの事例からの分析. *奈良教育大学教育実践総合センター紀要*, 12, 21-30.

Price, L. H., Van Kleeck, A., & Huberty, C. J.(2009). Talk during book sharing between parents and preschool children: A comparison between storybook and expository book conditions. *Reading research quarterly*, 44, 171-194.

秋田喜代美・無藤隆(1996). 幼児への読み聞かせに対する母親の考えと読書環境に関する行動

の検討. *教育心理学研究*, **44**, 109-120.

上原宏・馬場瑞穂・宇津呂武仁(2016). 絵本レビューを情報源とする子どもの認知発達の現象の観察と分析. *第30回人工知能学会全国大会論文集*, 2K33in1.

石川由美子(2011). 人工物 (artifact) としての絵本 母親の子どもの認知発達に関する絵本への期待調査から. *聖学院大学論叢*, **24**, 75-88.

横山真貴子・上野由利子・木村公美・原田真智子(2007). 4歳児の家庭における絵本体験の特徴 幼稚園での絵本体験の影響をふまえての分析. *奈良教育大学教育実践総合センター紀要*, **16**, 49-58.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

笠松美歩、上原宏、宇津呂武仁、齋藤有、絵本レビューを情報源とする子どもの認知発達の反応の収集・類型化とそれに基づく絵本の分類、*日本知能情報ファジィ学会誌「知能と情報」*、査読有、30巻3号、2018、581-590 DOI:https://doi.org/10.3156/jsoft.30.3_581

〔学会発表〕(計 8 件)

齋藤有、保護者の購入絵本に対する期待と行動 購入絵本の種類との関連に着目して、日本保育学会第72回大会、2019年

Yu Saito, Miho Kasamatsu, Takehito Utsuro, Yumiko Ishikawa, Relationship Between Mother's Expectation and Child's Pointing: Attempt of Complementary Use of Review Data and Observation Data, The Asian Conference on Psychology & the Behavioral Sciences (ACP)、2019年

齋藤有、宇津呂武仁、笠松美歩、石川由美子、前川久男、日常の文脈で絵本と子どもの発達を捉える 発達心理学と情報工学の協働による試み、日本発達心理学会第30回大会(東京) 自主シンポジウム、2019年

齋藤有、絵本の種類が養育者の絵本への期待や読み行動に及ぼす影響 インターネット調査からの検討、日本発達心理学会第30回大会(東京)、2019年

齋藤有、乳幼児をもつ保護者の絵本購入行動と購入絵本に対する意識 最近購入した絵本に関する質問紙調査および面接調査からの検討、日本教育心理学会第60回総会(神奈川)、ポスター発表、2018年

齋藤有、乳幼児をもつ養育者の絵本購入行動と購入絵本に対する意識と行動 インターネット調査からの検討、日本心理学会第82回大会(仙台)、ポスター発表、2018年

笠松美歩、上原宏、宇津呂武仁、齋藤有、絵本に対する子どもの認知発達の反応に着目した絵本レビュー・発達心理学文献の比較、第32回人工知能学会全国大会(鹿児島)、口頭発表、2018年

齋藤有、笠松美歩、上原宏、宇津呂武仁、探索絵本に対する母親の期待と子どもの指さし行動との関連:母親によるレビューデータと母子の絵本読み合い場面の録画データからの検討、日本赤ちゃん学会第18回学術集会(東京)、ポスター発表、2018年

〔その他〕

ホームページ等

こどもと絵本の研究室

<http://yusaito.net/>

6. 研究組織

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。